

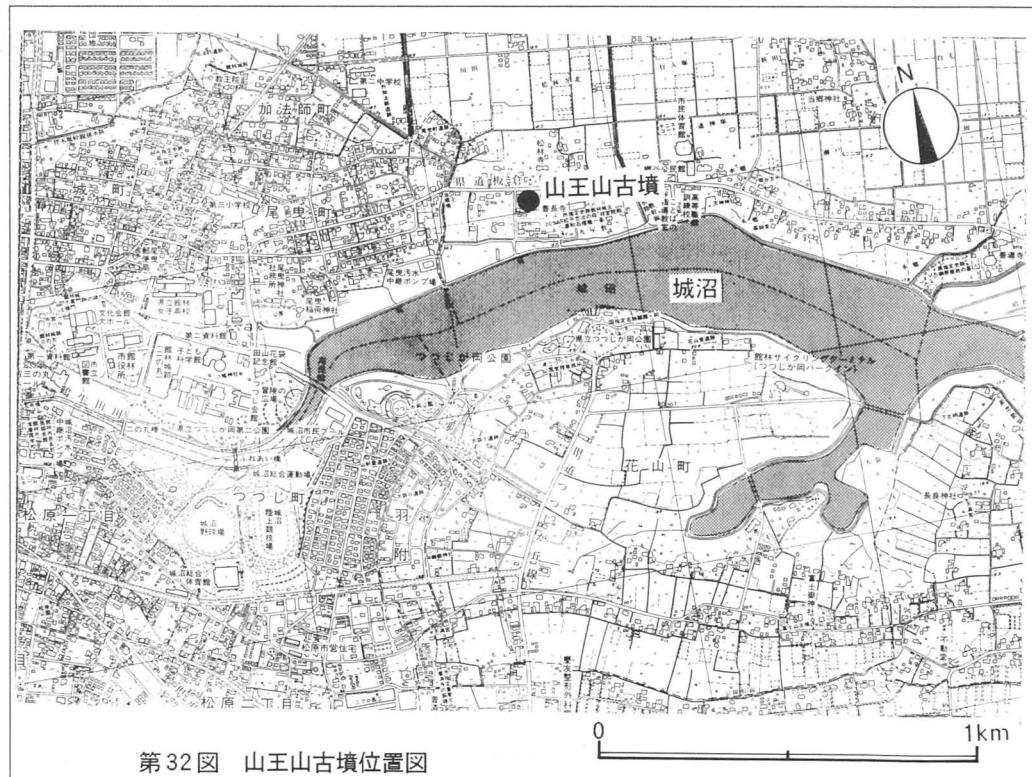
〈付記〉館林市指定史跡「山王山古墳」について

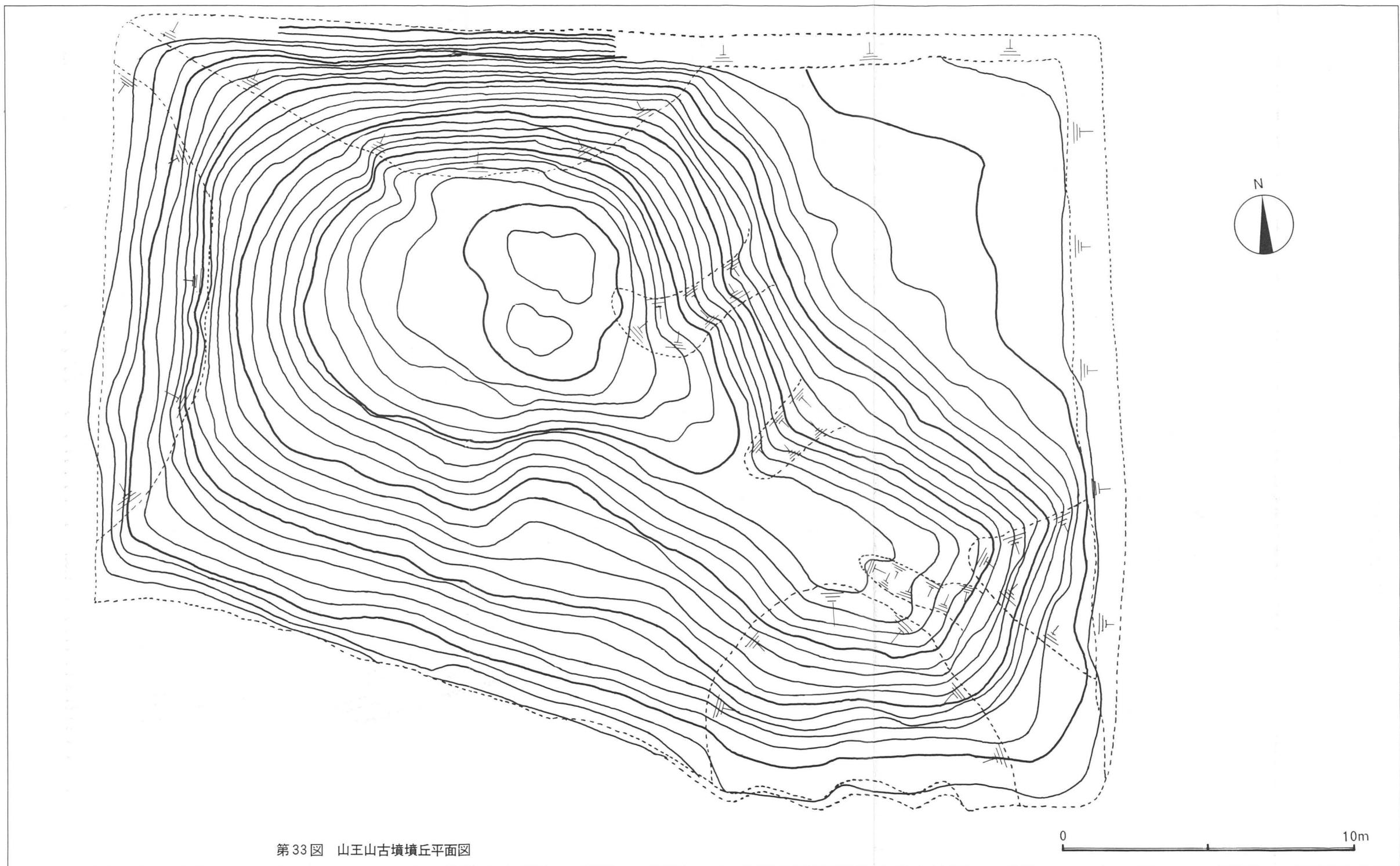
市の史跡に指定されている山王山古墳は当郷町1975-2の善長寺境内地に位置し、城沼の北岸の洪積台地上に築かれた前方後円墳で、市内で最も墳丘の保存状態の良い古墳である。

『上毛古墳総覧』(1938年刊)では当時の郷谷村に「第一号」「第二号」「第三号」と3基の古墳が登載され、「第一号」に「山王山」と名称が付され、前方後円墳の形状であることが記されている。「第二号」「第三号」は円墳の形をしたもので、当時の番地から山王山古墳と隣接していたことがわかるが、現在は消滅している。地元の聞き取り調査によれば「二の山」と呼ばれていた小高い土盛りが昭和20年代まで存在していたことが確認できる。また、山王山古墳の出土遺物として「金環、刀十口」が記載されており、その一部が現在も善長寺に保管されている。

昭和59年、墳丘の保存整備を行うため墳丘周辺の一部を発掘調査し、さらに墳丘の現況平面図を作成した。

墳丘の現況は北側に県道があり、昭和44年の県道拡張の際、後円部の一部が削平されているもののほぼ原型をとどめているといえる。現況では長さ47m、後円部径37m、高さ5mを測ることができ、後円部の軸は北西を向いている。





発掘調査により、周濠と思われる溝の一部が確認され、また出土した円筒埴輪の破片などから6世紀後半から7世紀初頭に築造されたものと考えられる。主体部は横穴式石室と考えられるが未調査である。

『館林市の遺跡』(1987年刊)では、山王山古墳を含めた区域は善長寺付近遺跡として登載され古墳周辺の台地上から古墳時代の遺物が散布し、古墳と同時代の集落址の可能性も考えられる。

(本文は昭和59年の調査による記録を参照)



写真10
山王山古墳調査風景



写真11 山王山古墳全景

〈参考文献〉

- 『館林市の遺跡』 館林市教育委員会 1988
- 『上毛古墳総覧』 群馬県 1938
- 『群馬県遺跡台帳』 群馬県教育委員会 1973
- 『板倉町史』 別巻九 板倉町史編さん委員会 1989
- 『明和村誌』 明和村誌編さん室 1985
- 『埼玉県史』 通史編1 埼玉県史編さん委員会 1987
- 『館林市誌』 歴史編 館林市誌編纂委員会 1969
- 『横穴式古墳の研究』 尾崎喜佐雄 1966
- 『塚廻り古墳群』 群馬県教育委員会 1980
- 『奥原古墳群』 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1983
- 『松本25号古墳発掘調査報告書』 邑楽町教育委員会 1989